

【研究論文】

教員等採用試験対策チャレンジセミナーの現状と課題 ～令和4(2022)年度と令和5(2023)年度の取組を比較して～

広島文教大学教育学部教育学科

教授 佐 伯 育 郎

はじめに

筆者は、これまで教職センター年報において教員採用試験対策チャレンジセミナー（以下、セミナー）の実践報告や考察をしてきた¹⁾。セミナーとは、正規の授業ではなく、課外で行われる自由参加型の取組である。学生の要望に応える形で本学教員によって開催されており、学生の主体的な学びを支援するものである²⁾。学生と教員、学科と教職センターとの連携・協働によって行われる取組であり、本学独自の営みである²⁾。

拙稿では、令和4（2022）年度セミナーの成果と課題を見出し、その省察を受けて令和5（2023）年度以降のセミナーのあり方を検討した（以下、2022年度と2023年度と表記³⁾）。

続く本稿では、2022年度と2023年度のセミナーの成果と課題の比較を通して、2024年度以降のセミナーのあり方を検討することが目的である。研究の方法としては、2022年度のエデュケーション学科4年生（1期生）と人間栄養学科4年生、2023年度のエデュケーション学科4年生（2期生）、その指導にあたった教員を対象としたアンケートを実施し、結果について分析・考察していくこととする。再度セミナーのあり方について省察する契機になるとともに、今後の方向性を探る材料になると筆者は考える。なお、2022年度と2023年度とはアンケートを一部改訂したため、比較可能な設問とその回答を中心に比較しつつ、各年度独自の設問についても考察する。

I 令和5（2023）年度セミナーの調査結果 ～教員の視点から

令和4（2023）年度に実施したセミナーに関する教員対象アンケート結果を報告する。調査期間は2023年9月から10月にかけてであり、調査方法はMicrosoft formsを用いて実施した。教職センターから関係教員に学内メールを通じてアンケートの回答を依頼した。回答数は14（グラフ中の人数は教員数）である。2022年では回答数は16であったため2人減となった。ここでのセミナーは、小学校・中学校・高等学校の取組を中心としている。なお、この調査結果は「2023年度 BMS活動報告 学生の進路希望に応じた就職支援の充実」として2024年3月実施のエデュケーション学科会において筆者が報告した。

1. 春季セミナー・コマ数

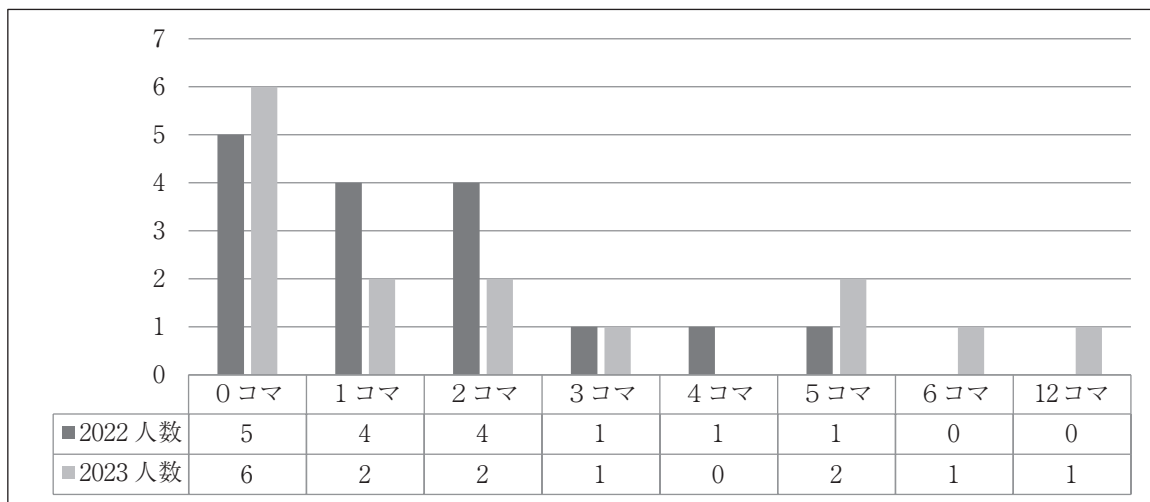


図1 【春季セミナーの担当コマ数】

セミナーは、開催時期によって春季セミナー、前期セミナー、夏季セミナーに大別できる。ここでは、春期休業中に行われる春季セミナーのコマ数について報告する。各教科等の学習指導要領や内容、個人面接などの一次試験対策が主な内容である。教員の専門分野などによってコマ数は異なっている。2023年度は合計35コマであり、2022年度の24コマより11コマ増であった⁴⁾。

2. 前期セミナー・コマ数

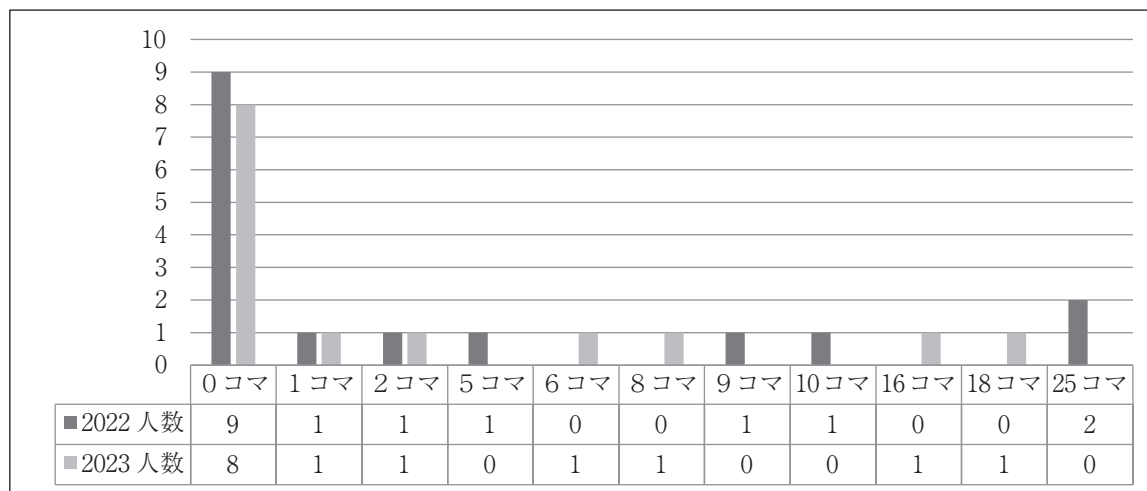


図2 【前期セミナーの担当コマ数】

次に、前期中に行われる前期セミナーのコマ数について報告する。指導内容は、教科等の内容、教職教養、個人・集団面接、集団討論、論作文などであった。2022年度に回答した全教員の合計は、77コマであった。2023年度は合計51コマであり、26コマ減となった。

3. 志願書等・指導回数

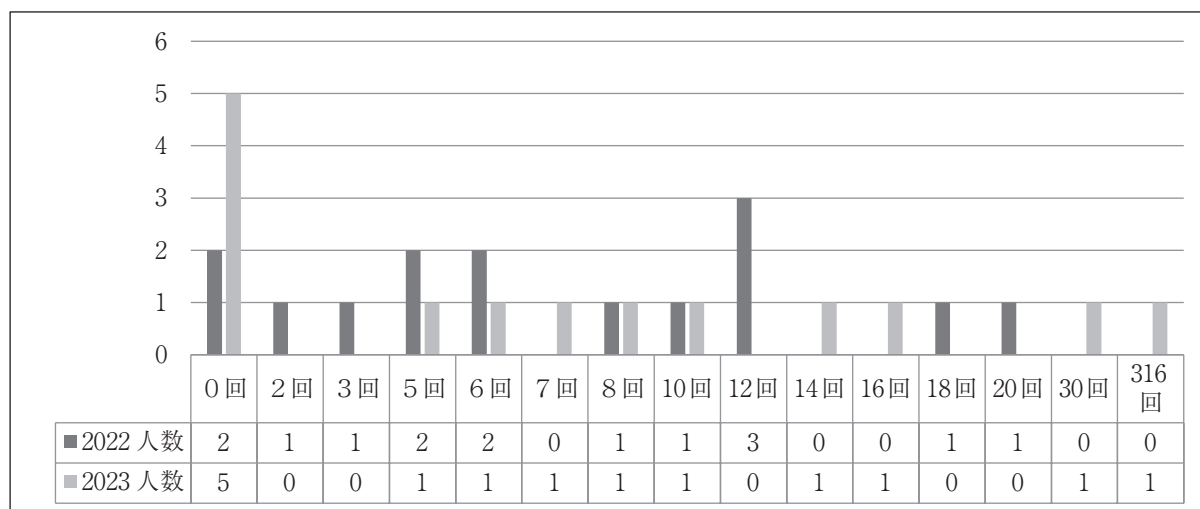


図3 【志願書などの指導回数】

次に、前期中に行われる志願書等の指導回数について報告する。一斉指導ではなく、教員が担当しているゼミ学生などを対象とした個別指導が中心となる。2022年度は延べ人数84人、合計93回であった。2023年度は合計412回であり、319回増であった。大幅に増加した要因は、回答者に変化があったことによる⁵⁾。

4. 小論文・指導回数

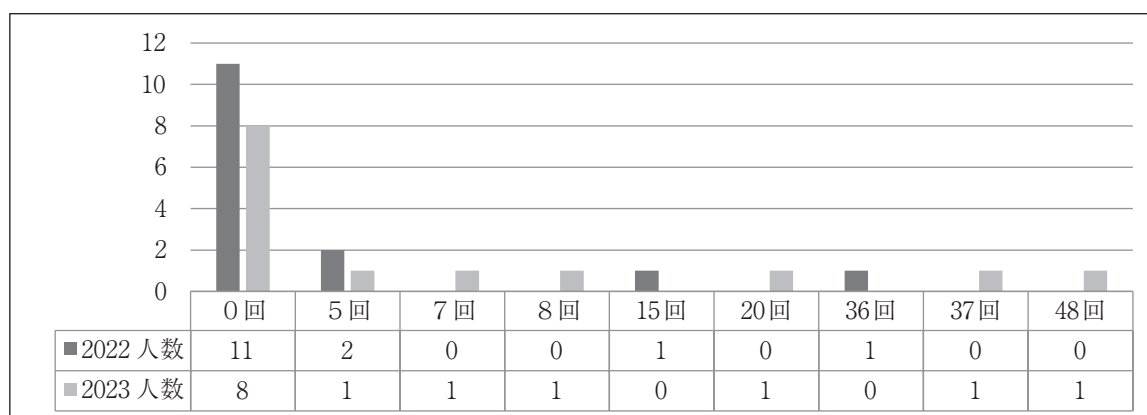


図4 【小論文の指導回数】

次に、前期中に行われる小論文の指導回数について報告する。セミナーという一斉指導ではなく、個別指導が中心である。主に国語系の教員を中心として指導が行われた。2022年度は延べ人数26人、合計61回であった。2023年度は合計125回であり、64回増となった。

5. 夏季セミナー・コマ数

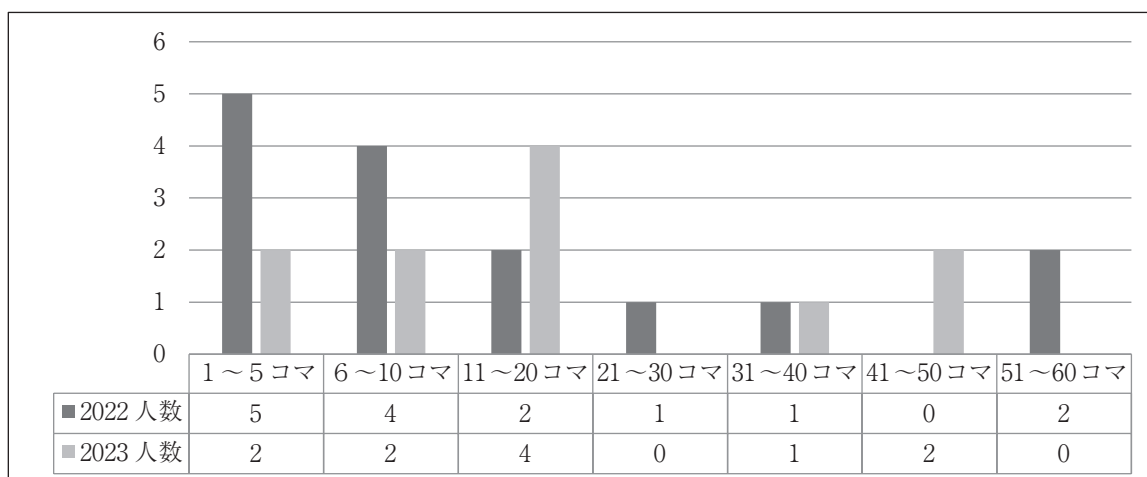


図5 【夏季セミナーの担当コマ数】

次に、7月下旬から9月にかけて行われる夏季セミナーについて報告する。模擬授業・場面指導、個人・集団面接、集団討論、実技（音楽・体育）、板書指導など二次・三次試験対策が主な指導内容である。2022年度は延べ人数461人、235コマであった。1人平均約29人、15コマという結果であった。2023年度は合計210コマであり、25コマ減となった。

その他の指導内容としては、英語実技（スピーチなど）、質問対応などが挙げられた。改めて本学教員が様々な専門分野や立場から学生の指導・支援をしていることがうかがえた。

6. セミナーへのご意見・ご要望

次に、セミナーへの意見・要望を自由記述していただいた。主に以下の記述があった。

- ・学生役員の顔晴り（がんばり）に敬意を表する。
- ・長年続く一部の教員に偏った現状は組織として危険である。
- ・セミナーの目的・運営などの共通理解、成果を出すための方策の検討が必要である。

上記のように、持続可能な体制の必要性、教員による担当数の平滑化、成果を出すための方策の検討などが課題として挙げられた。

Ⅱ 令和5（2023）年度セミナーの調査結果 ～学生の視点から

続いて、2023年度セミナーに関する学生対象アンケート結果について報告する。調査期間は2023年9月から2024年2月にかけてであり、調査方法はMicrosoft formsを用いて実施した。教職センターから関係教員にユニバーサルパスポートの学生通知を通じてアンケートを依頼した。2022年度の対象は教育学科4年生（1期生）、人間栄養学科4年生であり、回答数は34（グラフ中の人数は学生数）である。回答数34の内訳は、教育学科4年生（1期生）は初等教育専攻27人、中等教育専攻2人、人間栄養学科5人の回答であった（回答率44%）。2023年度は回答数39であり、初等教育専攻・児童教育コース28人、中等教育専攻5人であった（2023年度では幼児教育コースの学生6人も回答したが、2023年度との比較のため割愛する）。

1. 春季セミナー・コマ数

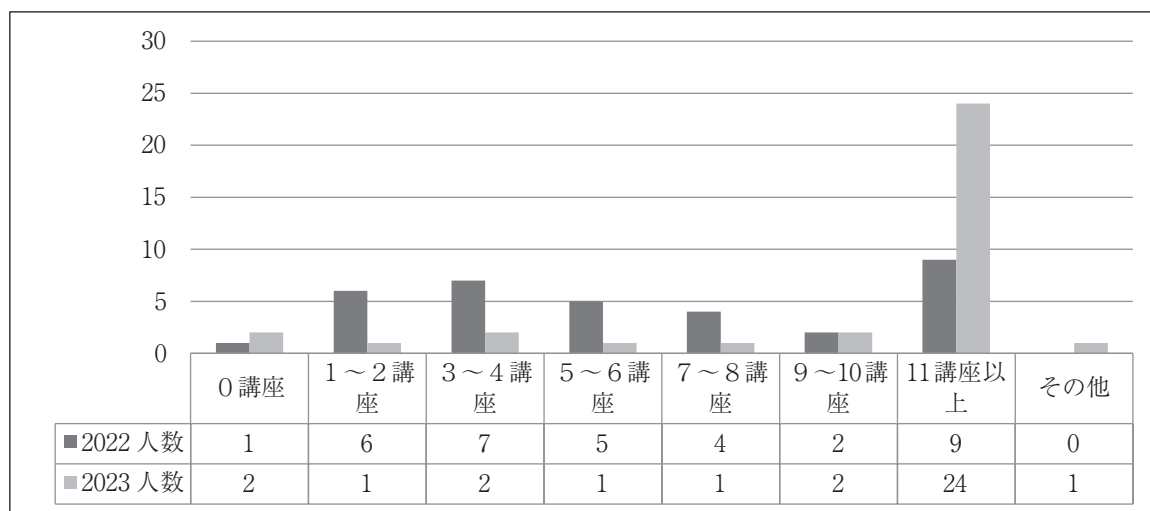


図6 【春季セミナーの参加講座数】

春季セミナーでは、2023・2024年度ともに11講座以上参加した学生が最も多かった。一方で、全く受講していない学生も認められた。参加コマ数は2024年度で増加している。全て参加した学生が11人いた。その他は「覚えていない」という回答であった。

2. 前期セミナー・コマ数

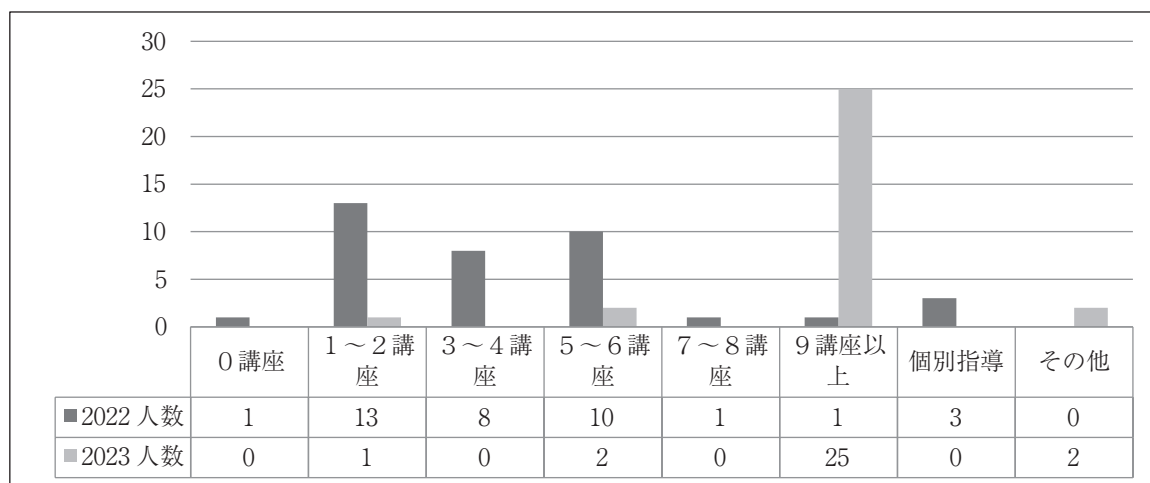


図7 【前期セミナーの参加講座数】

次に、前期セミナーをどのくらい受講したか質問した結果、2022年度では1～2講座が最も多かった。2023年度では9講座以上が最も多く、参加コマ数は増加している。全て参加した学生が10人いた。その他は「覚えていない」と回答していた。

3. 夏季セミナー・面接練習回数

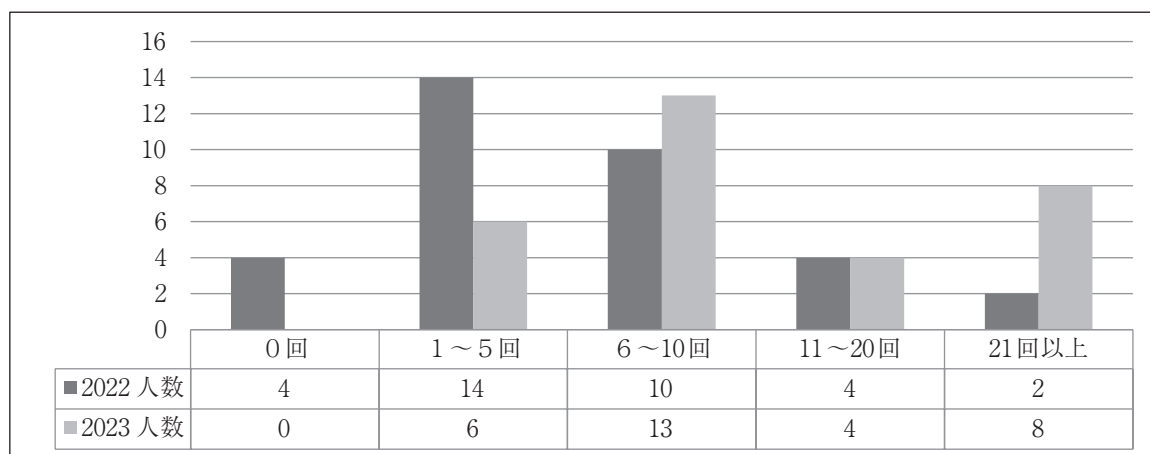


図8 【夏季セミナーにおける面接練習の参加回数】

次に、前期の7月前後から夏季休業中に行われる面接練習の参加回数について報告する。面接練習の参加回数は、2022年度では1～5回が最も多かった。2023年度では6～10回が最も多く、21回以上の学生も増加している。学生同士で練習している回数も含まれていることが分かる。

4. 夏季セミナー・模擬授業回数

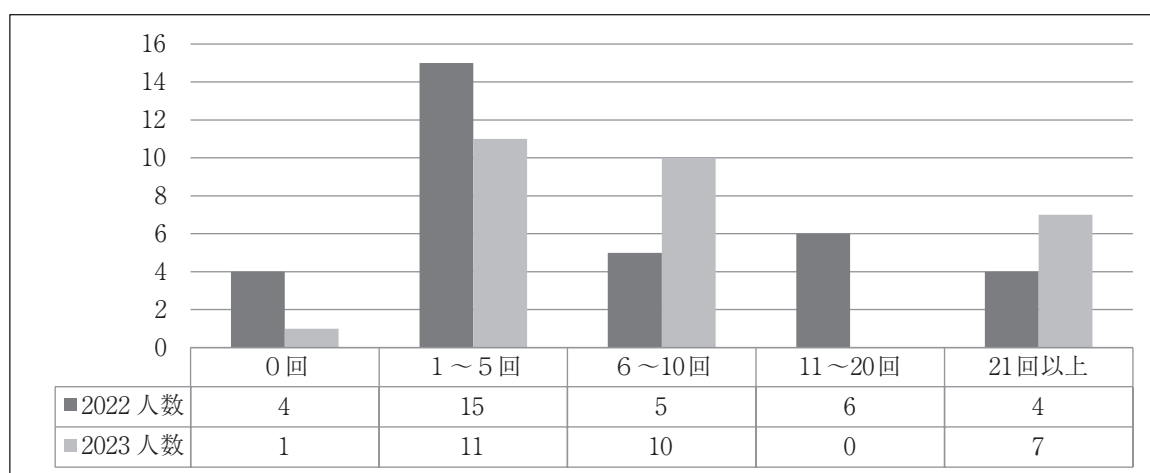


図9 【夏季セミナーにおける模擬授業の参加回数】

模擬授業（模擬授業面接・場面指導も含む）の参加回数は、2022・2023年度ともに1～5回が最も多かった。2023年度では、6～10回、21回以上の学生も増加している。学生同士で自律的・主体的に練習している回数も含まれているようである。

5. 夏季セミナー・集団討論&グループワーク回数

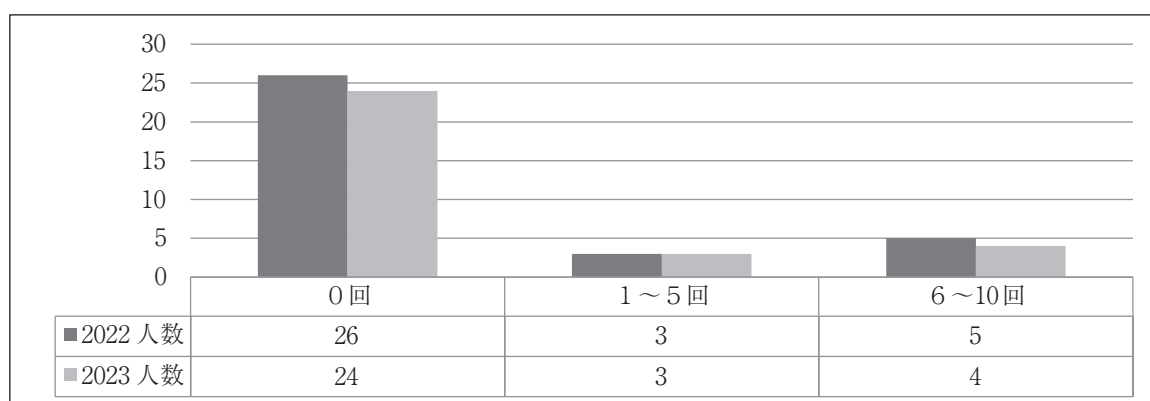


図10 【夏季セミナーにおける集団討論&グループワークの参加回数】

集団討論・グループワークの参加回数は、0回が最も多かった。2022・2023年度実施の教員採用試験において集団討論・グループワークを実施している自治体を受験した学生が少なかったことに起因している。2023年度では、練習回数は更に微減となった。

6. 夏季セミナー・実技対策（体育・音楽・英会話・ICT活用など）回数

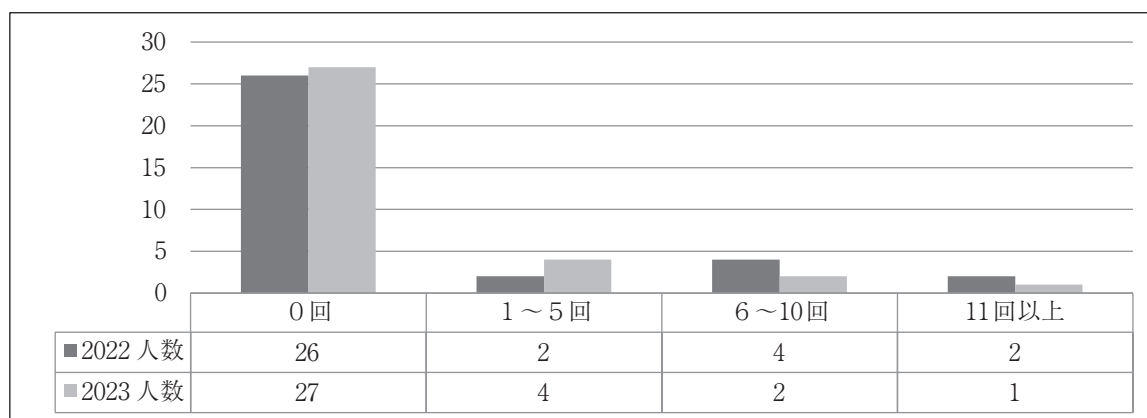


図11 【夏季セミナーにおける実技対策の参加回数】

実技対策（体育・音楽・英会話・ICT活用など）の参加回数は、0回が最も多かった。2022・2023年度ともに教員採用試験において実技試験を実施している自治体を受験した学生が少なかったことに起因している。2023年度では、練習回数は更に微減となった。

7. 2022・2023年度の春季・前期・夏季セミナーの成果と反省点、評価

次に、2022年度の春季・前期・夏季セミナーの成果と反省点、2023年度の春季・前期・夏季セミナーの評価について考察する。この設問が、2022年度と2023年度とでは大きく異なっている。

まず、2022・2023年度の春季・前期・夏季セミナーの成果についてまとめると次のグラフになる。本設問は、「あなたの受験勉強にどのような影響を与えましたか。良かった点について考えを記述してください。」という自由記述であった。筆者が無記入も含めた回答を6項目に分類した。開催時期毎に聞いた2022年度の結果を見ると、学びはじめの時期である春季に近いほど「方向性の明確化」「習慣の確立」という意味合いが強く、仕上げの時期である夏季に近いほど「内容理解の深化・実践力の向上」という意味合いが強くなっていることが分かる。2023年度のその他には、教職教養は試験に出ることが多かったので積極的に参加するとよい、先生方の協力に感謝したい、などという回答があった。反省点としては、講座内容はよかったが周囲と接することが少なかったため個人的にストレスになったという回答があった。

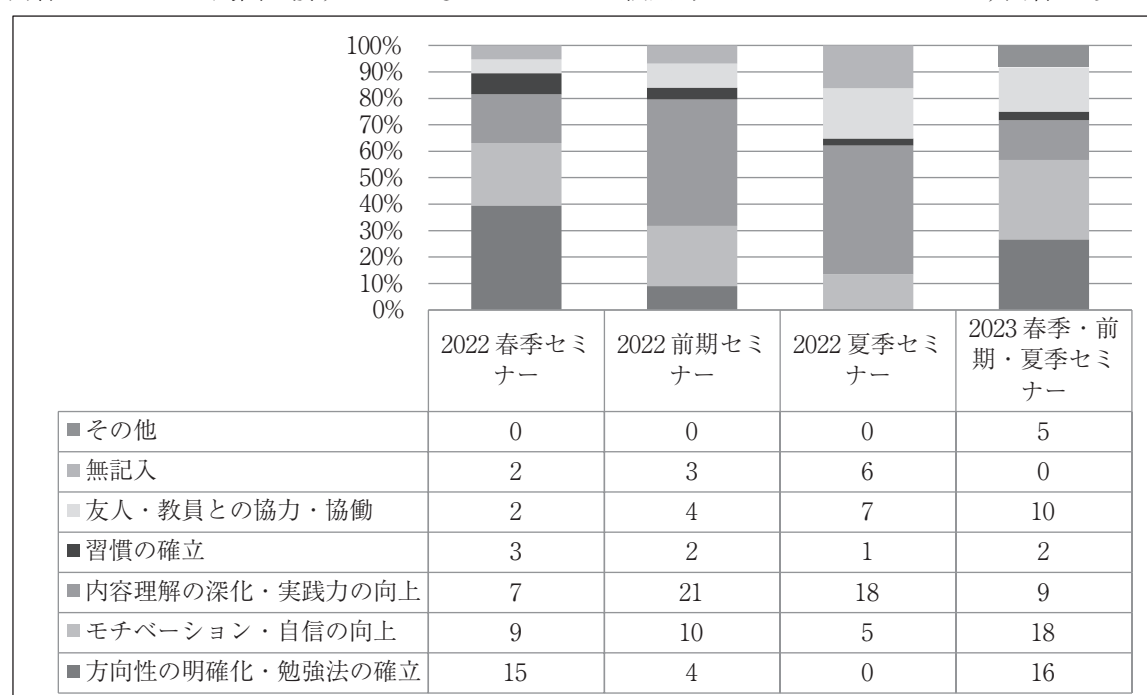


図12 【2022・2023年度の春季・前期・夏季セミナーの成果】

次に、2022年度の春季・前期・夏季セミナーの反省点についてまとめると次のグラフになる。「あなたの反省点があれば記述してください。」に対する回答も、筆者が無記入も含めた6項目に分類した。成果と同様、拙稿ではセミナー別に示していたが、本稿では一つのグラフに統合して再掲する⁶⁾。学びはじめの時期である春季に近いほど「意欲・集中力・積極性の不足」「予習・復習・練習の不足」という傾向が強く、仕上げる時期である夏季に近いほど「もっと絞ればよかった」という傾向が強くなっている。この設問は2022年度のみ聞いたものである。

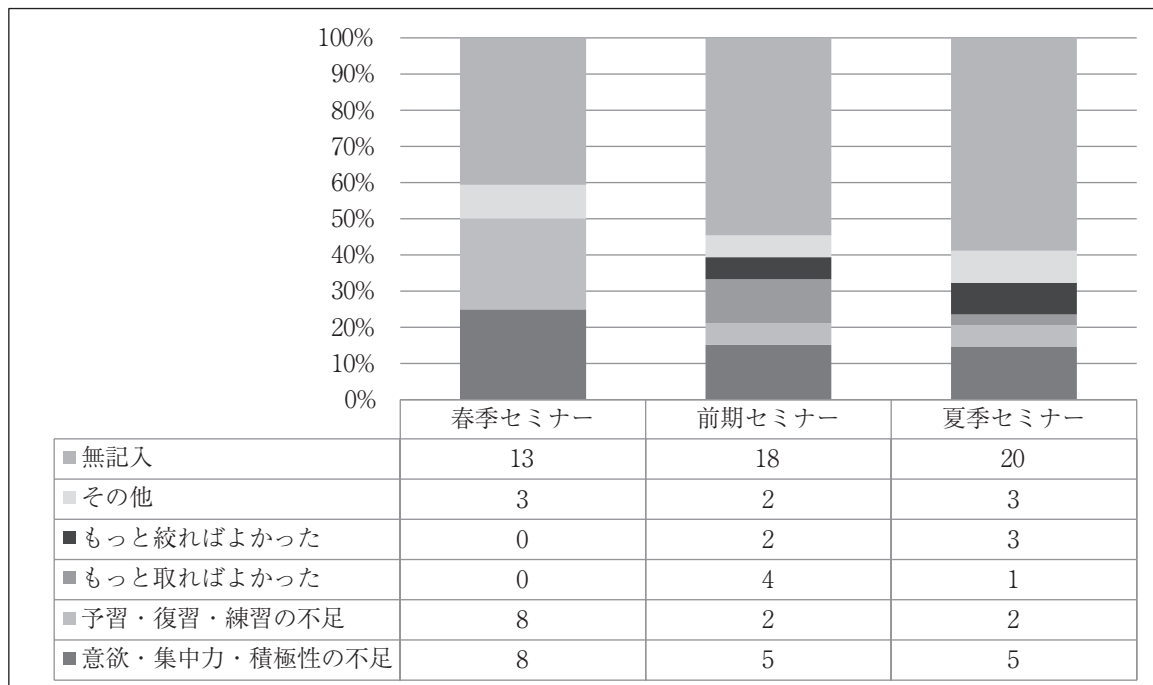


図13 【2022年度の春季・前期・夏季セミナーの反省点】

次に、2023年度の春季・前期・夏季セミナーの評価についてまとめると次のグラフになる。この設問は、学生の評価を把握するために実施した。「かなり良い」「良い」「普通」「あまり良くない」「良くない」「受講していない」の六つの選択肢から一つ選択させた。春季では「かなり良い」「良い」が82%，前期では「かなり良い」「良い」が91%，夏季では「かなり良い」「良い」が97%と、仕上げる時期である夏季に近いほど評価が高くなっている。この設問は2023年度のみ聞いたものである。

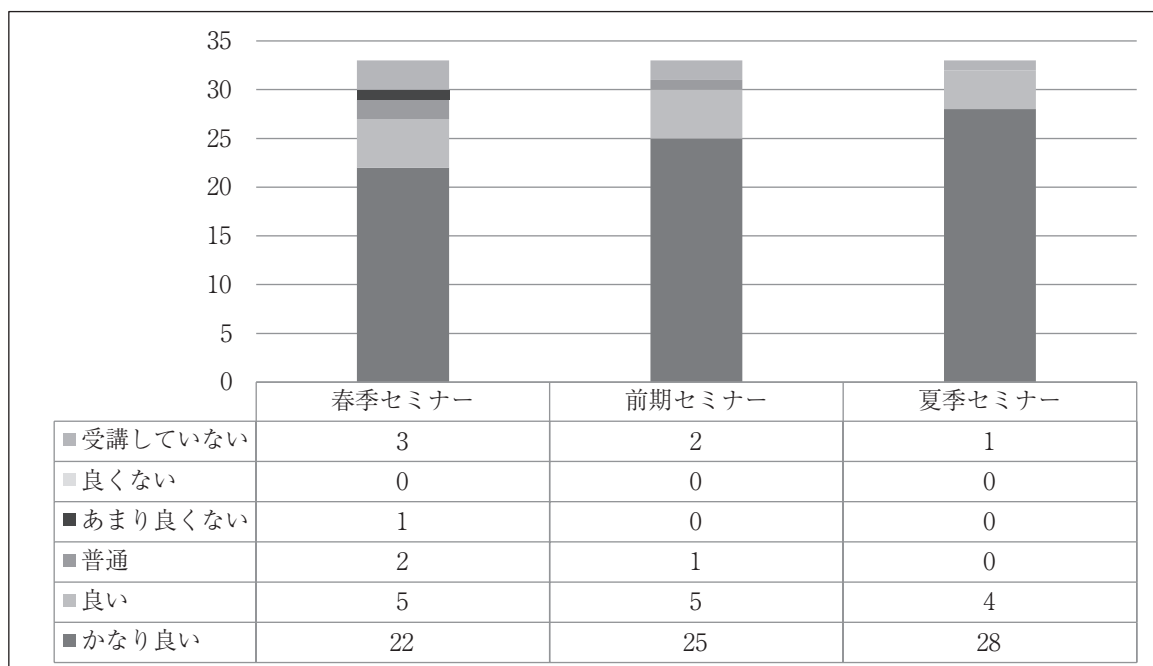


図14 【2023年度の春季・前期・夏季セミナーの評価】

8. 教採セミナー、教職センター、教員への要望・改善点

次に、教採セミナー、教職センター、教員への意見・要望については、以下の記述があった。

- 支援が嬉しかったし、感謝している（3人）。
- 先生同士の情報共有を盛んにしてほしい（2人）。
- コマ数を減らして無理しないでほしい（2人）。
- 先生とセミナー委員とで話し合う時間を設けたい。
- 模擬試験を毎回受けるよう促してあげてほしい。
- もっと楽にコピー機の使用ができるようにしてほしい。
- 1人しかいない自治体の対策をもっとしてほしい。
- 一次対策では、事前に内容を知らせてほしい。

他には、先生方の協力に感謝している、他の学生たちと全く違う自治体を受験したが仲間の一人として受け入れてくれた、などという回答もあった。

Ⅲ 2022・2023年度セミナーの比較と考察

教員・学生を対象としたセミナーについてのアンケート調査を実施した。令和5（2023）年度の教採対策セミナーでは、教育学科・人間栄養学科をはじめとする多くの教員の支援・協力を頂き、感謝している。アンケートで回答があったものを総括すると、春季セミナーは2022年度24コマ（平均1.5コマ）から2023年度35コマ（平均2.5コマ）、前期セミナーは2022年度77コマ（平均4.8コマ）から2023年度51コマ（平均3.6コマ）、志願書等添削は2022年度93回（平均5.8回）から2023年度412回（平均29.4回）、小論文指導は2022年度61回（平均3.8回）から2023年度125回（平均8.9回）、夏季セミナーは2022年度235コマ（平均14.6コマ）から2023年度210コマ（平均15コマ）という結果となった。アンケートの回答に含まれない部分でも、多くの支援・協力をしていただいたと筆者は捉えている。

2023年度では、アンケートの対象を幼児教育コースの学生にまで広げたが、回答数が少なく課題が見えにくかった。そのため本稿では割愛した。今回のアンケートでは設問を一部改良したことで、セミナー参加の学生の反省点が見えにくくなったので、アンケート自体も改善していきたい。小学校、中高などに関してはセミナーへの参加率が向上していたことが分かった。しかし、2023年度も、2022年度と同様にアンケートへの学生の回答率が低かったため、今後は授業などを活用して調査を実施し、回答率を上げていきたい。

2022年度の結果としては、2021年度より合格率が下がった点、特に広島県・市の結果、中等英語の結果などが課題であった。そこで、教職センターでは次の数値目標を設定して取り組んだ。①広島県・広島市小学校教員採用試験最終合格率75%以上（1人増以上）（2022年度実績73%、延べ33人中24人最終合格）、②広島県・広島市中学校・高等学校教員採用試験一次合格者1人以上（2022年度実績7人中0人）③中学校・高等学校英語教員採用試験最終合格者2人以上（2022年度実績・中学英語受験者延べ6人中1人島根県最終合格）、④栄養教諭採用試験一次合格者1人以上（2022年度実績5人中0人合格）、⑤広島市公立保育士採用試験最終合格率50%以上（1人増以上）（2022年度教育学科実績20人中9人最終合格、45%・二次三次受験辞退者を除く。）という5点である。

2023年度の結果としては、次のとおりであった。①広島県・広島市小学校教員採用試験延べ28人中24人最終合格（2022年度実績73% → 結果は85%で12%向上、人数は同一）、②広島県・広島市中学校・高等学校教員採用試験一次7人合格（2022年度実績7人中0人 → 結果は16人中7人一次合格、7人増）、③中学校・高等学校英語教員採用試験最終合格者3人（2022年度実績1人最終合格 → 結果は中学校英語受験者延べ7人中3人広島最終合格、2人増）、④栄養教諭採用試験一次合格者0人（2022年度実績広島0人合格 → 結果は広島2人中0人合格、変化なし）、⑤広島市公立保育士採用試験最終合格率63%（5人）（2022年度教育学科実績45% → 結果は一次二次三次受験辞退者を除く8人中5人合格63%、18%向上、人数は4人減）という結果となった。

広島県・広島市小学校教員採用試験最終合格率、②広島県・広島市中学校・高等学校教員採用試験一次合格者数、③中学校・高等学校英語教員採用試験最終合格者数、⑤広島市公立保育士採用試験最終合格率は向上した。④栄養教諭採用試験一次合格者については昨年度同様0人であった。教員採用試験対策チャレンジセミナー・幼教チャレンジセミナーの充実、学科の先生方による指導の充実、学生のセミナー委員と県人会の連携・協力の強化、教職センターによるバックアップ（学内模擬試験の受験促進、教職アドバイザーによる面談の増加など）の取組などによって合格率が向上したと捉えて

いる。2022・2023年度を比較すると、教員担当コマ数と学生のセミナーへの参加率が向上していたことも要因であったと考えられる。また、学生自身の実態（学力など）にも起因していると筆者は考える。④は達成できなかったが、栄養教諭採用試験は高倍率（2023年度実施の教員採用試験では、広島県・広島市の場合、一次倍率7.6、最終倍率19.0）であることもあり、かなり厳しい現状である。2022・2023年度の教員採用試験の結果を表にすると、図15・16になる。

年度	受験者数A	受験者 延べ数B	一次合格 延べ数C	一次合格率 C/B	二次合格 延べ数D	二次合格率 D/C	最終合格率 D/B
2022	58 (38)	60 (40)	50 (34)	83%	44 (30)	88%	75%
2023	61 (41)	69 (47)	60 (42)	87%	49 (38)	82%	71%

※（ ）内は女子で内数。

図15 【2022・2023年度実施・教員採用試験の結果（小学校）】

年度	受験者数A	受験者 延べ数B	一次合格 延べ数C	一次合格率 C/B	二次合格延 べ数D	二次合格率 D/C	最終合格率 D/B
2022	15 (8)	17 (10)	8 (7)	47%	6 (5)	75%	35%
2023	22 (15)	25 (17)	15 (10)	60%	11 (7)	73%	44%

※（ ）内は女子で内数。

図16 【2022・2023年度実施・教員採用試験の結果（中学校・高等学校）】

2022年度の4年生（教育学科1期生）では、中等国語・英語の勉強会と教員採用試験対策チャレンジセミナーとの接続が課題であった。2023年度の4年生（教育学科2期生）のセミナー委員では、中等教育専攻の学生が副セミナー長として入ったことで初等教育専攻と中等教育専攻との連携・協力体制が改善された。中等教育専攻が初等教育専攻とともに学び合う機会を設けた方がいいという意見を、2023年度の取組、例えば二次対策などでいかすことができたのではないかと考えている⁷⁾。『顔晴り冊子』も初等教育専攻・中等教育専攻とで合冊にすることができ、つながりがより強化された証左といえる⁸⁾。



図17 【2023年度・顔晴り冊子（左が初等・中等，右が幼児教育）】

筆者個人では、春季セミナー（2022年：図画工作2コマ，2023年：図画工作2コマ・二次対策1コマ），前期セミナー（2022年：図画工作5コマ，集団討論4コマ，2023年：図画工作5コマ，集団討論6コマ，図工実技5回），志願書等の添削（2022年：12回，2023年：6回），夏季セミナー（2022年：模擬授業・場面指導，面接，グループワークなど54コマ，2023年：場面指導，面接など43コマ）を担当した。2023年の春季セミナーでは1コマではあるが，二次対策・模擬授業のポイントについて取り上げた。参加学生の意見を取り入れ，模擬授業のポイントを改訂したが十分とはいえないため，今後も改良していく必要がある。

教員採用試験関係_今後の予定

教職センター 23.10.20

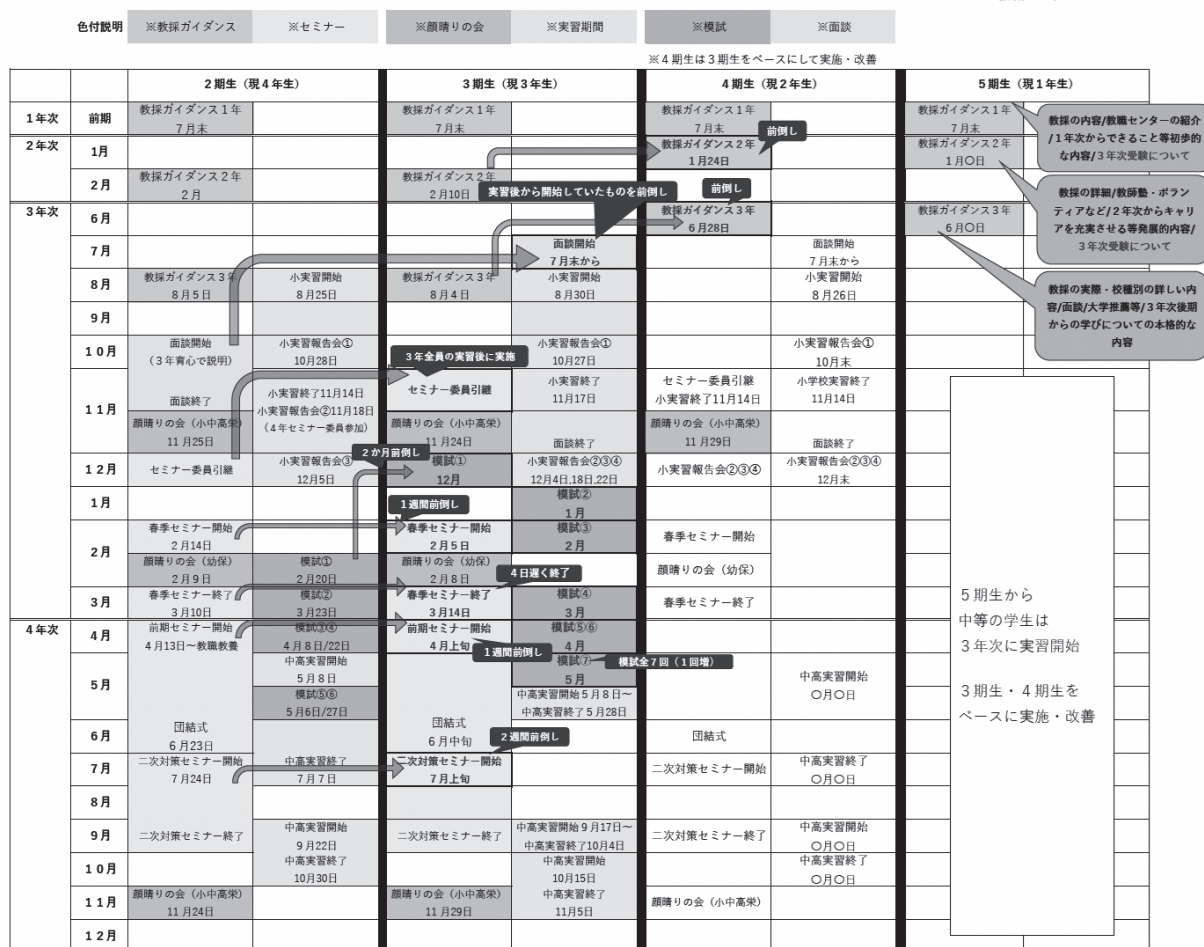


図18【教員採用試験関係・今後の予定(教職センター)】⁹⁾

令和5(2023)年度の教職センターでは、教員採用試験の早期化・複数回受験の状況を受けて、図18のように教採・就活ガイダンスの改善(時期の変更)、教員採用試験対策チャレンジセミナーの時期の変更、学内教採模擬試験の回数増加などの改善を行っている。今後も継続して改善を図ることで、学生の進路の実現に寄与していきたい。

註、引用・参考文献

- 1) 今崎 浩・佐伯 育郎「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実績」広島文教女子大学、教職センター年報・第2号、2014年、pp.63-70。佐伯 育郎「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実績」広島文教女子大学、教職センター年報・第3号、2015年、pp.99-106。佐伯 育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実績」広島文教女子大学、教職センター年報・第4号、2016年、pp.133-141。佐伯 育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実績」広島文教女子大学、教職センター年報・第5号、2017年、pp.99-105。佐伯 育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実績」広島文教女子大学、教職センター年報・第6号、2018年、pp.105-112。佐伯 育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実績」広島文教女子大学、教職センター年報・第7号、2019年、pp.99-106。研究論文としては、佐伯 育郎・上村 加奈・川西 正行「採用試験などの進路に関する取組(チャレンジセミナー)の実態調査について～平成28年度 初等教育学科を中心に～」広島文教女子大学、教職センター年報・第6号、2018年、pp.17-26 などにおいて報告・考察している。
- 2) 様々な大学が、それぞれの方法で教員採用試験対策を行っている。例えば、玉川大学の教員採用試験対策では大学の専任教員ではなく、専門業者が関わって指導・支援している。玉川大学2024教職課程受講ガイド(https://www.tamagawa.ac.jp/student_guidebook/2024/teacher/index。

html# 2024年12月28日取得)より。玉川大学の教職課程は登録制となっており、4年間を見通した指導・支援を行っている。授業料とは別に、教職課程受講料を受益者負担として教職を目指す学生より徴収している。例えば、教育学科に在籍して小学校教諭と中学校教諭の免許状取得を希望する場合、1年次で18,700円(参観実習、教職講座、教員採用模擬試験等)、2年次で29,200円(論作文等講座、教員採用模擬試験等)、3年次で55,500円(介護等体験、実習事前指導、論作文・面接対策等講座、教員採用模擬試験等)、4年次で35,900円(現場実習・事後指導、フォローアップ、論作文・面接対策等講座、教員採用模擬試験等)が必要となる。本学とは異なる方法で支援を行っている。

- 3) 佐伯 育郎「教員等採用試験対策チャレンジセミナーの現状と課題 ～令和5(2023)年度の実践を中心に～」広島文教大学、教職センター年報・第12号、2024年、pp.11-23。
- 4) セミナーの詳細は、広島文教大学教育学部教育学科第2期生『顔晴り』(2024年)を参照のこと。
- 5) 2023年度では、本学教職センター・小川 雅史特任講師(副センター長)が回答しているからである。志願書等の指導や個別面談をはじめ多くの学生の指導を担当されていた。
- 6) 佐伯 育郎、前掲註(3) pp.15-20。
- 7) 三田部 勇・米沢 崇編著『新・教職課程演習 第22巻 教育実習・教職実践演習』協同出版、2021年。同書において早坂 淳は、複雑化・多様化する学校を取り巻く教育的現実に対応するためには、①同僚教員、②保護者・地域住民、③学外の専門家等との連携・協働が求められると述べている(pp.124-125)。セミナーに参加したり、運営したりする学生たちにとっては、①同僚教員との連携・協働の基礎を在学中に自ずと学んでいると考えられる。
- 8) 広島文教大学教育学部教育学科第1期生『顔晴り』2023年。この期の『顔晴り』は、初等教育専攻と中等教育専攻とでは別冊となっていた。
- 9) 図18は、本学教育学科・長澤 希准教授が作成し、本学教職センター・内田 沙織主任が加筆したものである。

謝辞：教員採用試験対策セミナーについてのアンケート回答にご協力いただきました先生方、学生のみなさんに感謝いたします。誠にありがとうございました。